

Title	物流合理化のための輸送システム設計
Sub Title	
Author	石橋克彦(Ishibashi, Katsuhiko) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1984
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1984年度経営学 第321号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001984-0321">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001984-0321</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0321

学生氏名	石橋克彦	主査	伏見多美雄
		副査	柳原一夫
所属ゼミナール	柳原一夫 研		嶋口充輝

## 物流合理化のための輸送システム設計

物流の活動過程は、ノード（物流施設）とリンク（輸送経路）から構成される物流ネットワークで表現される。需要家から要求されている物流サービス水準をできるだけ最小の物流コストで達成できるように物流ネットワークの構造を決定することが、物流の最も戦略的な構造問題の一つである。ここで第一に問題となるのが物流施設立地問題である。第2に問題となるのは、配送計画問題である。

そこで、本研究では、運送業を営むK運輸(株)の事例をふまえて、物流問題の基本的構造を明らかにし、適切な物流ネット・ワーク設計のためのモデル化を試みた。

第1章・第2章で、問題の背景、提起とK運輸事例の概要を示し、第3章・第4章で物流施設立地問題を解決するためのモデル化とK運輸事例によるシミュレーションを行った。この結果から、物流施設立地問題には、輸送コストと施設コストによるトレード・オフが内在しているため、理論的に物流施設拠点数と規模を求めることの重要性が、示唆された。第5章・第6章では、配送計画問題を扱い、最適配送計画のためのモデル化とK運輸事例によるシミュレーションを行い、総配送コストを最小にする配送経路と配送車の種類・台数を求めた。さらに、K運輸の現状の配送計画との比較検討も加えた。